

広島支部近況報告（2012年2月発信）

寒中お見舞い申し上げます。広島もとても寒い日が続きます。風邪等もかなり流行しているようです。皆様方、くれぐれもお体には十分にお気をつけくださいませ。

でも、どんなに寒くても、子どもたちはほんとうに元気です。雪が降るとおおはしゃぎ。節分では、鬼に向かって「オニは〜ッ、そとー！！」の大合唱。どの時期でも、季節感を存分に感じて楽しんでいる子どもたちを見ると、ちょっと一安心。子どもたちには、季節の移り変わりの中で、「四季」という、大きな大きな4拍子のリズムを豊かに感じて健やかに成長して欲しいものです。



さて、2月5日（日）に行われた本年度最終第3回広島支部例会の報告をさせていただきます。この度も、東京より坂本真理子先生をお招きし、比治山大学付属幼稚園にて実施しました。年度末の忙しい時期にもかかわらず20数名の参加者があり、有意義な研修となりました。

今回のテーマは「拍子をつくるアクセント」「強さ」「重さ」(???)。坂本先生が、今最も伝えたいテーマだということでした。



◆ おしくらまんじゅう

「おしくらまんじゅう、押されて泣くな」歌いながら、体をぶつけ、おしりをぶつけ。大切なのは、相手の体の重みや勢いをイメージ的に感じる事。そして次に指先をぶつけ、手のひらをぶつけ。体と対比させ、軽さや柔らかさを確かめ合います。



◆ 押し入れ

押し入れの中身は？「敷き布団」「枕」「毛布」。さあ、次々に押し入れから出しましょう。実際に触ってないのに、リアルに重さを想像できます。これこそ「感性」、芸術的な表現の土台となる重要な要素です。なんと、押し入れから「ぞうさん」まで、出てきました。

ピアノの上に、「敷き布団」「枕」「毛布」を次々に落とします。



「さあ、思い思いに即興で、ピアノの上に落としてー」坂本先生の指示で、全員が列を作り、「敷き布団」「枕」「毛布」を順に落としていきます。いつのまにか、みんなで創るステキな演奏に。重さ・軽さ・柔らかさのコントラストが絶妙です。いつのまにか、演奏者の変わり目に「互いの目の合図」も。もうこれはジャムセッション。なんとも、これこそリトミックそのものの世界です。

押し入れが発展して、全音音階をベースにした即興の学習に。坂本先生曰く、「集団性が大事。自分に無いものを吸収し合って、『こんなこともしていいんだ』と学び合って」。



◆ その他

他にも、ティッシュの飛ばしっこ、ちぎって吹いて。いろいろなものが教材になります。「おもい岩」「しゃべるでホイ」を使って、「ダ

クチュリ」「アナベースト」の比較。今回は、「重さ」にかかわって、それを中心にさまざまな学びをさせていただきました。



最後の 1 時間は、坂本実践のDVD鑑賞。自由奔放に集中して身体表現する子どもたちの姿に、さらに乳児のリトミック実践における母と子の姿に、リトミックの多様性を見させていただきました。

坂本先生、また来年度も広島支部のご指導をよろしく申し上げます。